



コミュニティだより

(雪持啓)

令和元年度 第1号 7月 11日

稲越小学校 学習支援クラブ委員会広報

代表 中村 久美子

学校長 清田 博之

ゆきもちぐつわ

持続可能な社会の担い手の育成ために

～社会に開かれた教育課程の実現を目指して～

市川市立稲越小学校
教頭 大津幸夫

グローバル化や急速な情報化、技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測困難な時代となっています。そして、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様な原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出してきことが期待されています。

また、子供たちを取り巻く環境も変わっていきます。これまでも、多様な体験活動の機会の少なさが指摘されてきましたが、情報通信技術の更なる発展によりヴァーチャルな体験がリアルさを増していくとともに、自然体験などの体験活動やスポーツをする機会の減少による影響も懸念されています。

このような時代にあって、学校教育には子供たちの様々な変化に向き合い、様々な力をつけていくことが求められています。「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育てていくことが大切となってきます。

学習支援クラブが紹介している体験活動は、豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力などの生きる力の基盤、子どもの成長の糧としての役割を持ち、思考や実践の出発点あるいは基盤として、あるいは、思考や知識を働かせ、実践して、よりよい生活を創り出していくために経験となり、「力」となります。

今年度も学習支援クラブでは、スタッフの力を借り、地域にある財産や人脈を活用して「梨の成長」「稲作体験」「昔遊び体験」など様々な体験活動を行っていきます。スタッフ方には多くの取材活動を行っていただき、「ゆきもちぐつわ」を通してより多くの方々に学校の取り組みを広めていただきます。

本年度も保護者・地域・関係機関等の力を借りながら、子どもたちに様々な経験を通じて、社会を担っていく力の基盤を育てていきたいと思っております。

学習支援クラブ代表より新年度のご挨拶

新しいスタッフを迎えて、今年も学習支援クラブの活動が始まりました。稲越小学校ならではの活動には、地域の皆様のご支援とご協力があるからこそ、地域密着だからこそその学習の場が多くあります。

今年も5年生は稲作が始まり、3年生は梨づくり体験が始まりました。ご指導いただく方々は長年にわたり毎年快くお引き受けくださり、本当にありがとうございます。他にもこの1年間、子どもたちはいろいろな体験をしますので、保護者の方々も是非、子どもたちの姿を参観してみてください。普段見られない我が子の一面を発見できると同時に地域の方々に支えられている事を実感する事と思います。

何が楽しかったのか、大変に思った事はあったのか、どんな事を感じたのか、子どもたちの話に耳を傾けてください。一緒に感じ共感することでより心豊かな子どもたちに育つことと思います。

私たちもそんな子どもたちを見守りながら、共に成長していきたいと思っていますので、今年も稲越小学校の子どもたちにご指導、ご支援、ご協力のほど宜しくお願い致します。

学習支援クラブ 代表 鈴木 陽子

学習支援クラブ 令和元年度年間活動計画

| | | | |
|----|-------------|------|-----------------|
| 1年 | 昔の遊び体験/秋みつけ | 1・2年 | 安全教育/地域めぐり/野菜栽培 |
| 2年 | 秋みつけ/店探検 | 3・4年 | 安全教育/海苔漉き体験(抽選) |
| 3年 | 梨づくり | 3～6年 | 書き初め教室 |
| 4年 | 栽培活動 | 4～6年 | クラブ活動・卓球教室 |
| 5年 | 稲作体験 | 全学年 | 地域安全確認大作戦 |
| 6年 | 古代体験教室 | | /音楽鑑賞教室/栽培活動 |

《 校 章 》



雪持轡
(ゆきもちくつわ)

昔、稲越小の周りが牧場であったことから『のびのびと明るくたくましい子ども』が育つことを願って、馬の轡(くつわ)を図案化して校章にしました。

デザイン 弘田 稔氏
(元 中央図書館館長)

令和元年度 学習支援クラブスタッフ名簿

| | | |
|-------|---------------------|-------------------------|
| 委員長 | … 鈴木陽子 (4年保護者・事務局長) | ボランティア |
| 副委員長 | … 桑原理恵 (6年保護者・兼書記) | 竹内英光 (地域代表・元PTA会長) |
| 会計 | … 宮地頭代 (2年保護者) | 鈴木一生 (前PTA会長) |
| 会計 | … 大津幸夫 (教頭・学校代表) | 服部英信 (稲越自治会会長) |
| 監査 | … 石井綾子 (3年保護者) | 細谷正幸 (曾谷第六自治会会長) |
| 監査 | … 高木由美 (5年保護者) | 松山玲子 (学習支援コーディネーター) |
| 教職員 | … 清田博之 (校長) | 中山みゆき (市民図書室代表[ひばり図書室]) |
| 教職員 | … 須賀伸吾 (教務主任) | |
| 広報/編集 | … 徳田寿莉阿 (1年保護者) | |

【3年生】 4月11日 交配／5月28日 摘果／7月9日 袋かけ 梨園体験
ご指導 丸安果樹園 松丸さん



【交配作業】

クリーム色の花粉を花の一つ一つに、梵天という道具を使って、手作業で付けました。子どもたちは、とても真剣に「どの花に付けたかな」と探りながら作業していました。

松丸さんによる梨や作業内容などについての説明を静かに聞いて、一生懸命メモをとる姿がありました。特に、咲いているすべての花に交配作業をする事に、とても驚いていました。

【摘果作業】

房になっている実の中で、「大きくて、形がよく（丸い）、斜め上を向いている実」を1つだけ選んで残し、その他の実は、剪定ハサミを使って手作業で切り取りました。子どもたちは、どれがいいかをお友達に聞くなどしながらも、真剣に取り組んでいました。

最後には、「楽しかった！」「もっと沢山切りたかった！」などの声が聞こえてきました。

【袋かけ作業】

10/20頃の収穫にむけて、10cmほどに成長した梨に自分の名前を記入した梨袋をかけました。「どれが大きくなるかな」と真剣なまなざしで My 梨を選び、袋かけは「難しかった！」とは言っていましたが、慎重に取り組んでいました。梨農家では、1日1000袋をかけると聞き、大きな驚きがあがっていました。帰るころには、落下している梨をお土産に持ち帰る子もいて、笑顔で学校に戻って行きました。

《次は、9月の梨狩り体験。今日、袋かけをした実はそれまで落ちずにいるでしょうか！？》

【6年生】 5月31日 縄文体験

ご指導 千葉県教育委員会文化財課、加藤さん、宿城さん、糸原さん



弓・ヒキリ棒・ヒキリ板・ハンドピースを使った火起こし体験をしました。各グループに分かれ、最後にはみんなが火起こしをすることができました。チームワークがよいグループは早く火が起こせましたが、なかなか火が起きないグループは率先して手伝いに行くお友だちも多くいました。

その後は、縄文土器・弥生土器・石器の説明を聞き、千葉県内で発掘された実際の土器などを触らせていただき、縄文土器に比べて弥生土器のほうが軽く、デザイン性がある事にも気付きました。

最後に、縄文土器のレプリカでジャガイモとゆで卵を作り、塩をかけてみんなで美味しく頂きました



【1・3年生】 5月30日 交通安全教室



【1年生】DVDを見て交通ルールを学び、ミニ信号機などの道具やパネルを使った「飛び出し」の危険性を体験を通して学びました。下記6点は、何度も教えてもらっていました。

- ・手を高く上げて渡る
- ・停まっている車がいたら近寄らない
- ・巻き込み
- ・青だけど車は、私を見てるかな
- ・止まる、見る、待つ
- ・車には死角があり急にはとまれない

【3年生】自転車教習。DVDでは、子どもがちょっとした不注意から加害者になってしまうという重いテーマでしたが、みんな真剣に見ていました。その後は、パネルを使い自転車が走行してもよい場所の確認、自転車のルールを学び、この日から始めて、公道を一人乗りできるようになりました。下記6点は、保護者と情報をシェアしてくださいと教えてもらっていました。

- ・自転車は車の仲間
- ・13歳までと、70歳以上は歩道を走れる
- ・左側通行
- ・携帯電話、傘さし、音楽を聴きながら、無灯火、飲酒、踏切くぐり抜けなどはしていけない

1年生・3年生ともによく話しを聞いており、最後は、元気な声で気持ちのよいお礼をしました。

【4年生】 6月7日 安全マップ作り

ご指導 市川警察署 交通課岡崎さん



6つのチームに分かれて地域のフィールドワークを行いました。千葉県は、交通事故死亡率ワースト1位(6/6時点)で、昨年度は年間ワースト2位というお話から始まり、マップ作成をとおして「どこが危険か」「なんで危険か」「どうすればいいのか」などを子どもたちの視点で発見しました。発見した危険箇所は、カラーマジック・写真・付箋などを使って安全マップにわかりやすく表示しました。

その次は、『4年生として、安全のために何ができるかを見つける』でした。いい案があればこれから実現していきたいということで、自分たちが見てきた危険箇所を思い出しながら、チームのメンバー同士で熱心な話し合いがおこなわれました。

最後の発表は、全チームぶっつけ本番でしたが、わかりやすくお友だちに伝えたいという思いから、発見した危険箇所を今後の安全に活用してもらいたいです。

